

施策16 こどもの読書活動の推進

現状・課題

- 第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画に基づき、多様な子どもたちへの読書機会の確保やデジタル社会に対応した読書環境の整備に取り組んでいます。情報があふれる現代において、読解力や思考力を養う読書活動の推進は不可欠であり、情報を見極めるメディア情報リテラシーを育成する必要があります。
- 各学校では、学校司書と学校教育課担当主事が、各学校での取組や課題を話し合うことで、学校図書館の充実を図っています。
- 学校司書による読み聞かせや図書館環境の整備、図書委員会によるイベントの企画など、各校において工夫した取り組みを行っています。
- アンケート調査結果では、学校の授業後や休日に本を「ほとんど読まない」と回答した児童生徒の割合が約3割となっています。また、学校の先生に対しても「いろいろな本を読んで聞かせたり、紹介したりしてほしい」という要望があることから、読書への興味を惹きつける日常的な働きかけや、自発的に本を手取るきっかけとなる環境づくりをさらに進める必要があります。
- 学校図書館における電子書籍の導入については、教育的費用対効果や活用事例について、引き続き調査、研究を進める必要があります。
- 公共図書館では、毎週、選書会議を行い、季節や時事、子どもたちの興味・関心に沿う本の選定を行っています。子どもの発達段階に合わせた資料のうち、郷土に関する資料が少ないため、充実を図る必要があります。
- 児童生徒に対する「おすすめ本の紹介」については、児童生徒のニーズや時事に適しているかなど、適宜、内容を精査しながら、定期的に作成・発行しています。
- 赤ちゃんの心とことばを育むため、保健センターで4ヶ月児健診を受診する親子を対象に、絵本の読み聞かせと絵本を手渡しでプレゼントするブックスタート事業を行っています。
- ブックスタートボランティアや図書館ボランティアに対して、研修や交流会を実施していますが、ボランティアの高齢化等が進んでいることから、新たな担い手を発掘する必要があります。
- 複数のボランティアグループにより、おはなし会やイベントを実施していますが、子どもの人数の減少にともない、おはなし会等への参加者が減少しています。
- 中央図書館から幼稚園・保育園・児童クラブ・市内小中学校などへ、本を配送する配本サービスについては、蔵書冊数に限りがある中で、小学校からの希望分野が重複することもあります。可能な限り希望に添うように実施しています。
- デジタル化社会が進展していく中で、情報の信頼性や真正性を見極める力（メディア情報リテラシー）やICT教育の進展を踏まえたデジタル環境が必要となっています。図書館DXの推進やメディア情報リテラシーに関する情報発信や講座等を開催していく必要があります。

具体的な取組

取組	内容	担当課
学校における読書活動の推進	児童生徒の読書への関心を高める取組として、児童生徒が主体となって実施する活動や協同的な活動の推進を図り、児童生徒が読書に親しむ機会をつくります。	学校教育課
おすすめ本の紹介	乳幼児からティーンズまで、その世代に適した内容のリーフレットを発行します。	図書館
ブックスタート事業の実施	継続的にブックスタートボランティアを募集するとともに乳幼児期から切れ目のない読書支援を行います。	図書館
おはなし会やイベントの実施	開催時間や開催曜日、おはなし会の内容等の精査を行い、多様な子どもの状況に応じたおはなし会や読書への興味関心を高めるイベントを実施します。	図書館
図書館ボランティアの育成	ブックスタート事業やおはなし会の担い手であるボランティアの活動を支援するとともにボランティアのスキルアップを図る講座を開催します。また、ボランティアグループの垣根を超えた情報等交換が行えるよう交流会も開催します。	図書館
ホームページなどによる情報提供	ホームページなどを活用し、図書館や学校図書館の活動や行事を広く市民に情報提供します。	図書館 学校教育課
こどもの発達段階に合わせた図書館資料の選書・充実	こどもの発達段階に合わせた資料の充実を図ります。また、「学び合う学び」に役立つ資料提供や連携コーナー設置など、探求的な活動を支援します。	図書館
子ども郷土資料の充実	子どもの郷土愛醸成とふるさと教育の推進に資する子ども郷土資料の充実を図ります。	図書館
施設配本サービスの実施	幼稚園、保育園、児童クラブ、小中学校や福祉施設などへ希望される本を配送する「施設配本」サービスを引き続き実施します。	図書館
電子書籍の活用の検討	小中学校への電子書籍の導入について、調査・研究を進めます。	学校教育課
デジタル社会に対応した読書環境の整備	現在導入しているこども向けデータベースを活用して、正しく情報を扱う情報リテラシー講座を定期的に開催します。 また、学校教育(学校図書館・学校司書)と連携し、図書館の情報資源の活用方法や図書館の利用教育の推進を図ります。	図書館

施策20 図書館サービスの充実

現状・課題

- 本市の図書館運営は、「中央図書館」に加え、ラピオ4階にある「えほん図書館」と公民館図書室である3か所の「市民センター図書室」により市内全域でサービスの提供を行っています。
- 近年の人件費高騰など、増加し続ける図書館の管理運営費の削減を図るため、令和8年4月1日から、市民センター図書室にＩＣＴ機器を導入し、貸出・返却を利用者自身で行えるようにした上で、利用の少ない午後5時～午後8時を無人で運営することとしました。
- 図書館資料については、小牧市立図書館資料収集方針に基づき、公共図書館として特定分野に偏重することなく、あらゆる世代の市民の要望を反映し、多種多様な資料の充実を図るとともに、保存すべき資料の精査を実施しています。今後は、郷土資料のデジタル化を推進していく必要があります。
- 図書館主催のイベントに加え、ボランティアや市民活動団体との連携により内容の充実を図っています。
- 市民の日常生活や趣味、仕事に関する様々な課題を解決するための資料や情報の提供を行うレファレンスについては、簡易的なものから複合的なものまで、多様な相談に対応できるよう、定期的に内部研修を行い、司書のスキルアップを図っています。
- 図書館司書による発案だけでなく、市役所各課や関連施設の発案による連携コーナーを設置し、多様な情報提供に努めています。一方で、常設コーナー等については、利用者の関心を引き続けるための定期的な資料の入れ替えや展示内容の工夫が求められています。
- 読書バリアフリーサービスの1つとしてボランティアの協力を得て、定期的に対面読書を実施しています。今後も持続可能な形でサービスを提供していくためには、活動を支える新たな担い手を確保していくことが重要な課題となっています。
- 電子書籍の所蔵点数は1,000点を超え、安定した資料提供を行っています。一方で、電子書籍は、高額であるため、引き続き、安定した資料提供を行うためには、購入方法等を検討していく必要があります。

具体的な取組

取組	内容	担当課
図書館資料の充実	乳幼児から高齢者、障がい者、外国人など、すべての市民に対応できる多種多様な資料の充実を図るとともに保存すべき資料の精査を行います。	図書館
デジタル資料の充実	資料活用の利便性向上と郷土資料の保存のため、資料のデジタル化(デジタルアーカイブ)を進めます。	図書館
イベントの充実	市民のニーズを把握しながら、市民団体等とも連携した多様なイベントを開催します。	図書館

取組	内容	担当課
レファレンスサービスの充実	市民の日常生活や趣味、仕事に関する様々な課題を解決するため、資料や調べものに役立つデータベースなどにより適切な情報の提供を行います。また、ホームページで公開しているレファレンス事例集の充実を図ります。	図書館
展示、企画コーナーの充実	年間計画に基づき魅力的なコーナーを設置するとともに、関係各課や団体等とタイアップした展示や連携企画コーナーの充実を図ります。	図書館
障がい者サービスの実施	様々な障がいのある市民が図書館資料を利用できるよう、今後も引き続き、音訳・点訳ボランティア団体の安定運営に資するための支援を行います。各団体の会員獲得を促すとともに活動の動機付けとなる取組や、スキルアップ・指導員養成につながる支援を行います。	図書館
図書館・各図書室等の連携	中央図書館をはじめ、地域における図書館サービス提供の拠点として、各市民センター図書室は社会情勢に対応した適切な管理運営に努めます。	図書館
電子図書館の充実	貸出等の利用状況を把握しながら、「こまき電子図書館」の充実を図ります。	図書館